

平成16年5月14日

## 平成16年3月期 決算の概要について

シロキ工業株式会社

(輸送用機器 東証、名証第1部上場)

(\*百万円未満以下切り捨ててあります)

### 1、連結決算について

3月31日現在の当社の連結子会社は国内6社、海外7社の計13社、他に持分法適用会社が3社で、前期比では海外の連結子会社が2社増加いたしました。これは中国における自動車メーカーの現地生産拡大に対応するために、全額出資の生産子会社を中国に2社設立したことによります。(昨年5月江蘇省昆山市に「昆山白木汽車零部件有限公司」、昨年10月広東省広州市に「広州白木汽車零部件有限公司」)

### 〔グローバル化推進の結果、過去最高の売上〕

#### 売 上

当期の売上高につきましては、堅調に推移し、前期比0.1%増の1140億4千2百万円で1億1千7百万円の増収となり、過去最高の売上となりました。また昨年5月発表の期初予想1100億円に対しても3.7%増の40億4千2百万円の増収となりました。世界4極市場に対応すべく、グローバルでの受注拡大を進め、同時に国内生産体制の整備をした取り組みの結果があらわれてきたものであります。

#### 国 内

海外生産移転の増加や国内販売が伸び悩む国内におきましては、シロキ工業が前期比で0.4%減の896億9千1百万円で3億9千6百万円の減収となりましたが、これは非自動車部品分野の前期比11億5百万円減(47.7%減)によるものであります。自動車部品分野は主に日産自動車(株)九州工場向けのドアサッシ、シートリクライナ・シートアジャスタを生産する九州シロキ(北九州市)が本格生産開始により前期比3.8倍の20億2千5百万円で14億9千5百万円の増収となったことなどが貢献し、自動車部品分野は堅調に推移いたしました。これにより好調

#### 連結(上段当期、下段前期)

##### 売上高:

1140億4千2百万円  
1139億2千4百万円  
(前期比0.1%増)

##### 営業利益:

45億6千万円  
60億3千3百万円  
(前期比24.4%減)

##### 経常利益:

40億7千5百万円  
54億7千5百万円  
(前期比25.6%減)

##### 当期純利益:

16億7千3百万円  
23億3千8百万円  
(前期比28.4%減)

##### 1株当たり当期純利益

18円10銭  
25円56銭

##### 海外売上高比率

20.2%  
19.8%

##### 設備投資

56億2千7百万円  
48億8千8百万円

##### 減価償却費

54億7千5百万円  
56億9千7百万円

だった昨年並みの売上をほぼ確保いたしました。

## 海外

海外におきましては、北米生産拠点のSWマニユファクチャリング（米国・テネシー州）がドルベースで前期比7.4%増の1億8千9百万ドルで1千3百万ドルの増収となり、ドルベースでの売上は過去最高となりました。これは米国現地のトヨタ自動車（株）向けが堅調であったことに加え、02年より生産を開始したドアサッシが好調に推移し、米国での拡販活動の成果がでたことによります。円換算の前期比では円高の影響を受け0.4%減の219億5千6百万円で僅かに8千1百万円の減収となりました。

ASEAN地区の生産拠点であるシロキタイランド（タイ）は昨年8月の新工場完成により本格稼働を始め、主に現地トヨタ自動車（株）や三菱自動車工業向けにウインドレギュレータを生産・納入し、6億5千5百万円（前期比6億2千9百万円増）の売上となり、グローバルでの受注拡大の成果が、連結での売上増に結びつくことになりました。

## 〔退職給付費用増や為替などの影響で減益〕

### 利益

利益につきましては、グループをあげて生産性の向上や徹底した総原価低減に取り組んでまいりましたが、営業利益は前期比24.4%減の45億6千万円で14億7千2百万円の減益となり、また経常利益は前期比25.6%減の40億7千5百万円で14億円の減益。当期純利益は28.4%減の16億7千3百万円で6億6千4百万円の減益となりました。

主な減益要因といたしましては、売上高伸張に寄与した九州シロキやシロキタイランドが操業開始時の費用負担により利益貢献にいたっていない他、退職給付費用増などによるシロキ工業の減益と円高の影響などによるSWマニユファクチャリングの減益が大きく影響いたしました。

シロキ工業は、退職給付費用の増加3億2千7百万円や総報酬制導入による社会保険料の増加1億7千4百万円、賞与引当金見直しによる引当増3億1千2百

### 得意先について（連結）

（上段当期、下段前期）

・トヨタG	（69.2%）
789億4千2百万円	
779億7千5百万円	
	（1.2%増）
・売上高上位3社	
トヨタ自動車	（45.6%）
520億3百万円	
553億4千4百万円	
	（6.0%減）
スズキ	（9.8%）
111億2千7百万円	
123億5千3百万円	
	（9.9%減）
三菱自動車工業	（5.6%）
63億4千2百万円	
76億7千9百万円	
	（17.4%減）

\* 社名横の（）内は  
売上構成比率

### 主要製品について（連結）

（上段当期、下段前期）

シートリクライナ・	
シートアジャスタ	（35.6%）
405億5千3百万円	
395億5千9百万円	
	（2.5%増）
ウインドレギュレータ	
	（28.5%）
325億9百万円	
335億3千万円	
	（3.0%減）
ドアサッシ	（17.4%）
198億3千2百万円	
187億7千6百万円	
	（5.6%増）

\* 製品名横の（）内は  
売上構成比率

万円などが利益を圧迫し、営業利益は前期比20.5%減の35億9千万円で9億2千6百万円の減益、経常利益は15.6%減の37億9千5百万円で7億3百万円の減益となりました。

SWマニュファクチャリングは、新規立ち上り品の先行費用や労災保険料の増加により、営業利益は前期比56.9%減の4億7千6百万円で6億3千万円の減益となりました。経常利益は為替差損6億2千6百万円などにより前期比82.1%減の2億円で9億1千1百万円の減益となりました。

## 2、個別決算について

### 〔自動車部品分野が堅調に推移、期初予想に対し大幅増収、前期比微減も堅調さは維持〕

#### 売上

シロキ工業単独につきましては、非自動車部品分野の落ち込みにより、売上高は前期比0.4%減の896億9千1百万円で僅かに3億9千6百万円の減収となったものの、主力の自動車部品分野が堅調だったため、ほぼ昨年並みを確保いたしました。

昨年10月発表の修正予想874億円に対しては26%増と増収とすることができました。これは主要取引先の堅調な国内生産や九州シロキでの本格生産開始などによる増加によって、海外現地生産移転の影響や非自動車部品の減少をカバーしたものであります。日産自動車(株)が10億3千8百万円増(27.4%増)と好調に売上が伸びたほか、主に日産自動車(株)向けのシートリクライナ・シートアジャスタを納入した日本発条(株)の売上が20億5千4百万円増(94.5%増)と大きな伸びとなっております。

### 〔期初予想に対し大幅増益、前期比では退職給付費用増などで減益〕

#### 利益

利益につきましては、徹底した収支改善活動などによって14億3千6百万円の合理化効果を出したものの、退職給付費用増などによって、営業利益は前期比

#### 個別(上段当期、下段前期)

##### 売上高:

896億9千1百万円  
900億8千7百万円  
(前期比0.4%減)

##### 営業利益:

35億9千万円  
45億1千6百万円  
(前期比20.5%減)

\*

- ・退職給付費用前期比  
3億2千7百万円増加
- ・社会保険料前期比  
1億7千4百万円増加
- ・賞与引当金前期比  
3億1千2百万円増加

##### 経常利益:

37億9千5百万円  
44億9千8百万円  
(前期比15.6%減)

##### 特別利益:

1億9千8百万円  
7千3百万円

##### 特別損失:

- 17億3千2百万円
- 15億5千2百万円
- ・固定資産除却損  
(1億6千1百万円)
- ・退職給付費用  
(6億6千万円)等
- (\*会計基準移行時差異  
5年均等費用処理分)

##### 当期純利益:

12億1千4百万円  
15億5千3百万円  
(前期比21.8%減)

##### 1株当たり当期純利益

13円08銭  
16円88銭

##### 得意先について(個別)

(上段当期、下段前期)

・トヨタG (64.7%)

580億6千8百万円

584億7千1百万円

(0.7%減)

・売上高上位3社

トヨタ自動車(35.8%)

321億5千万円

358億6千6百万円

(10.4%減)

スズキ (12.4%)

111億2千7百万円

123億5千3百万円

(9.9%減)

三菱自動車工業(6.2%)

55億5千6百万円

68億5千8百万円

(19.0%減)

\* 社名横の( )内は

売上構成比率

20.5%減の35億9千万円で9億2千6百万円の減益、経常利益では15.6%減の37億9千5百万円で7億3百万円の減益となりました。

最終損益につきましては、退職給付費用や固定資産除却損などを計上した結果、当期純利益は前期比21.8%減の12億1千4百万円で3億3千8百万円の減益となりました。

しかしながら、昨年10月の修正予想に対しては経常利益29億円に対し30.9%増、当期純利益10億円に対し21.4%増と大幅に上回りました。これは全社をあげて徹底した合理化活動に取り組み収支改善に努めた結果であります。

### 3、16年3月期の主な取り組み実績

当社では中期経営計画(01~05)に沿って経営の効率化と企業体質の強化を強力に進めております。特に世界4極市場への対応のためグローバル化を強力に推進し、世界競争勝ち残りを図るべく取り組みを展開しております。当期に実施した主な取り組みは次の通りであります。

#### 1、グローバル展開の加速

中国に工場進出

- ・現地生産会社「昆山白木汽車零部件有限公司」を設立(昨年5月)
- ・現地生産会社「広州白木汽車零部件有限公司」を設立(昨年10月)、本年8月に工場完成予定
- ・アジアでの生産・供給体制を強化し、世界4市場対応を加速

タイの新工場完成(シロキタイランド)

- ・新工場稼動(昨年8月)
- ・ASEAN地区での生産・供給体制を強化し、世界4極市場対応を加速

#### 2、利益体質の定着化

固定費削減

- ・借入金の削減

[199億円(前期末) 179億円(当期末)]

#### 3、グループ事業の改革

- ・宇和島シロキの工場閉鎖決定(本年8月閉鎖予定)

#### 主要製品について(個別)

(上段当期、下段前期)
シートリクライナ
シートアジャスタ(35.3%)
316億8千9百万円
312億3百万円
(1.6%増)
ウインドレギュレータ
(26.5%)
237億3千4百万円
246億2百万円
(3.5%減)
ドアサッシ(20.9%)
187億5千1百万円
177億4千3百万円
(5.7%増)

\* 製品名横の( )内は  
売上構成比率

#### 設備投資

41億7千3百万円  
35億1千1百万円

#### 減価償却費

45億7千8百万円  
49億3千3百万円

#### 17年3月期予想

連結(上段予想、下段前期実績)

#### 売上高

1120億円  
1140億4千2百万円  
(前期比1.8%減)

#### 営業利益

36億円  
45億6千万円  
(前期比21.1%減)

#### 経常利益

35億円  
40億7千5百万円  
(前期比14.1%減)

#### 当期純利益

12億円  
16億7千3百万円  
(前期比28.2%減)

#### 1株当たり

予想当期純利益  
12円76銭

#### 設備投資

51億6千2百万円

#### 減価償却費

56億6千9百万円

- ・ ソーラー事業の廃止（本年3月営業終了）

#### 4、平成17年3月期連結業績予想について

##### 〔堅調な海外は増収、国内は減収を予想〕

###### 売上

今期の連結の業績予想につきましては、売上高は通期で1120億円、前期比20億4千2百万円の減収を予想しております。これは北米やアジア地域において増収となるものの、国内での減収を予想しております。

###### 国内

国内売上高は、円高進行や原料・資源価格上昇などの懸念材料があるなど、本格的な市場回復には至らないものと予想しております。国内生産も伸張は難しいものと思われるため、シロキ工業の通期の売上高は前期比2・6%減の874億円で22億9千1百万円の減収を予想しております。

###### 海外

北米では現地トヨタ自動車（株）向けの売上が引き続き堅調に推移し、売上高は前期比5%増の2億ドルと過去最高の売上を予想しております。

アジアではシロキタイランドにおいて現地トヨタ自動車（株）の世界戦略車向けのウインドレギュレータの生産が今年8月より開始されるため、売上高もこれに伴い倍増の12億円を予想しております。

##### 〔今期は将来のための基盤構築の年。中国進出などの先行投資や構造改革費用増で減益を予想〕

###### 利益

利益面では引き続き経営資源の効率化やロスコストの低減など総原価低減を徹底して取り組んでまいります。海外では市況変動による原材料の高騰や社会保険・労災保険などの労務付帯経費の増加などによる収益への影響や、シロキ工業の減収、宇和島シロキの工場閉鎖に伴う一過性の費用、中国進出に伴う生産立ち上げ費用などの構造改革費用や先行投資もあり、減益を予想しております。今期は将来の為の基盤構築の年と位置付け先行投資、構造改革に力を注いでまいります。通期の営業利益につきましては、36億円で9億6千万円の減益、通期の経常利益は35億円で5億7千5百万円

###### 単独（上段予想、下段前期実績）

###### 売上高

874億円  
896億9千1百万円  
（前期比2・6%減）

###### 営業利益

26億円  
35億9千万円  
（前期比27・6%減）

###### 経常利益

27億円  
37億9千5百万円  
（前期比28・9%減）

###### 当期純利益

10億円  
12億1千4百万円  
（前期比17・6%減）

###### 1株当たり

予想当期純利益  
10円67銭

###### 設備投資

41億5千万円

###### 減価償却費

49億5千5百万円

の減益、また通期の当期純利益は12億円で4億5千5百万円の減益を予想しております。

## 5、単独業績予想について

### 〔将来を見据え、厳しい経営環境を構造改革でのりきり〕

通期の売上高は874億円と予想し、前期比22億9千1百万円の減収を予想しております。通期の営業利益につきましては減収による限界利益の低下、原材料高騰による材料比率の上昇などにより26億円で前期比9億9千万円の減益、通期の経常利益につきましても27億円で前期比10億9千5百万円の減益を予想しております。当期純利益は10億円で前期比2億1千4百万円の減益を予想しております。

当社といたしましては、中期経営計画に沿って構造改革を着実に進め、一段と経営の効率化と企業体質に努めてまいります。また、海外拠点の構築・整備により世界4極市場への対応をさらに加速させ、世界No.1の魅力ある製品づくりによりブランド力を強化するとともに、総原価低減に取り組み、競争力を一層強化し、世界競争に勝ち残りをはかってまいります。

## 6、17年3月期の主な取り組みについて

### 1、グローバル展開の加速

中国・広州白木自動車零部件の工場完成（本年8月）

- ・アジアでの生産・供給体制を強化し、世界4市場対応を加速

### 2、利益体質の定着化

固定費削減

- ・借入金の削減

[179億円（前期末） 169億円（今期末予定）]

### 3、グループ事業の改革

- ・宇和島シロキの工場閉鎖（本年8月末予定）

この件のお問い合わせは：

シロキ工業株式会社（0533）84-4691

経理部長

総務部広報担当

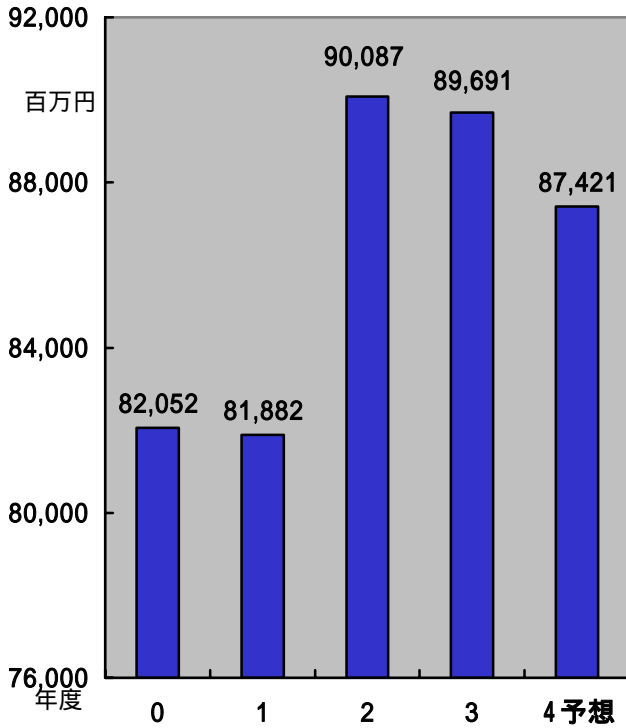
大石

眞野 まで

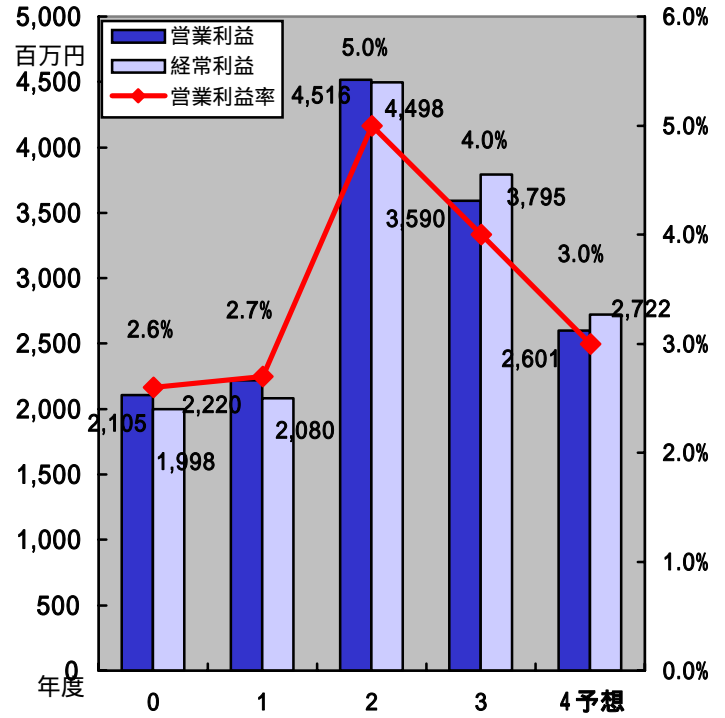
# 業績推移

シロキ工業株式会社

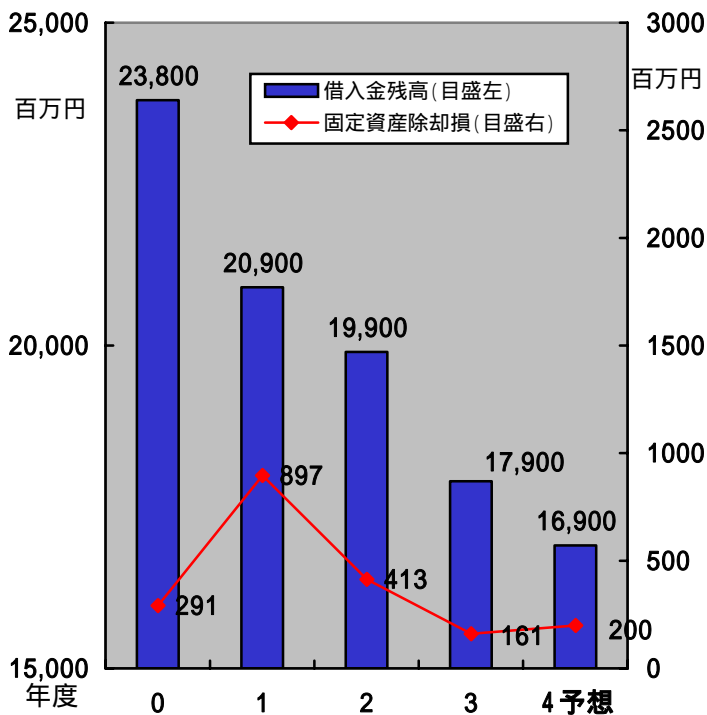
個別売上高推移



個別利益推移



個別財務体質の強化

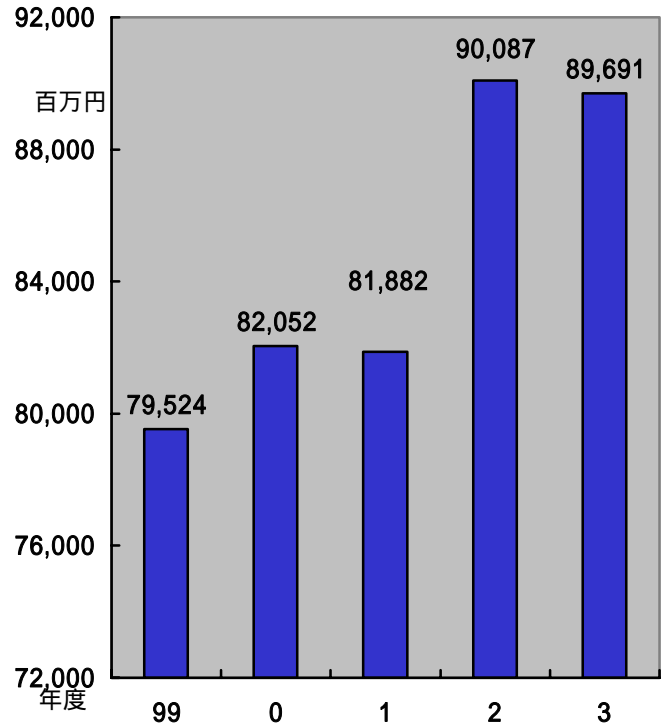
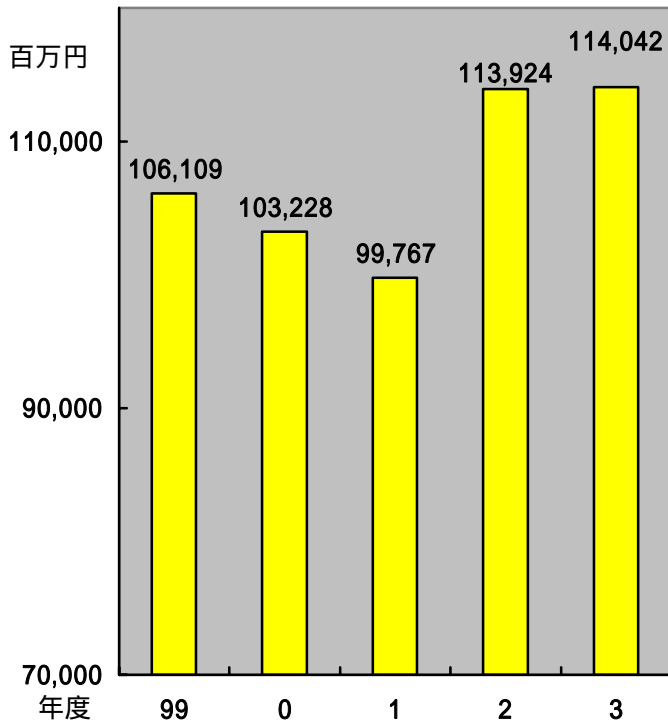


# ご参考

シロキ工業株式会社

連結売上高推移

個別売上高推移



連結利益推移

個別利益推移

